中小企業の産業保健第37回

北王コンサルタント株式会社



社員に届けられる地元野菜セット(写真左)とその解説(写真右上)写真右下は野菜を使ったスイーツで、左がキャロットケーキ右がごぼうパウンドケーキ

北海道帯広市に本社のある北王コンサルタント株式会社は、1967年の創業以来、「人と自然が調和する快適で豊かな北の大地を創造する」を企業理念とし、建設コンサルタントとして、土木工事の設計をはじめ、測量や環境調査に至るまでの幅広い業務を行ってきた。

道路、橋梁、上下水道等の調査によるインフラ保全や公 共施設の建築設計など地域に密着した身近な事業を展開し、 社会基盤整備の一翼を担っている。また十勝平野に位置す る農業が盛んな土地柄から農業土木関連の調査設計に関す る実績も多く積み重ねてきた。

2019年に健康事業所宣言を行い、健康経営への取組を本格的に開始、翌年には健康経営優良法人に認定されている。

そこで、社員への地元野菜の配布や社用自転車と駐輪場の整備など、ユニークな手法で産業保健活動を活性化させている同社の取組について、管理栄養士で衛生管理者でもある総務課の尾藤寧音さんと総務部長の佐藤寛さんにお話を伺った。

農業関連にたずさわる強みを活かし 地元野菜の配布と健康情報の発信を行う

同社の産業保健スタッフは委託の産業医1名と衛生管理者 2名であり、事業規模によって定められた人員を配置した基 本的な活動はかなり以前から地道に行ってきていたという。

一般健診の会社負担はもちろん、オプション検査も一部費用を補助し、再検査の受診を勧奨するために受診時の特別休暇取得などで再受診率を毎年向上させてきた。2016年にはストレスチェックを導入してグループごとに傾向を把握、問題点があれば改善していくようにその部署のリーダーたちと話し合い、個人的に問題がある社員に関しては産業医面談を行うなど社員のメンタルヘルス向上にも積極的に取り組んでいる。

そんななか、管理栄養士である尾藤さんが入社し衛生管理 者としての活動を始めた2018年から、地元野菜の社員への 無料配布と健康情報としての「野菜通信」の発行が始まる。

「農業に詳しい社員が多かったですし、グループ会社に農業生産法人があるなど条件がそろっていましたので、それなら健康にいい地元野菜を社員に食べてもらおう、と始めたのです」と佐藤さんはそのきっかけを語る。

「私は管理栄養士として専門知識を持って野菜通信に旬の

22 産業保健 21 2023.10 第 114 号

野菜の栄養価やお勧めの調理法などを書いていますし、 社員には野菜ソムリエと食生活アドバイザーの資格を 持った方がいますので、その方を講師に健康セミナー を開催するなどしてきました|と尾藤さん。

しかし当初はなかなか参加者が集まらず、野菜通信に対する反応も薄かったという。そんななか、社員の意識を健康経営へと後押ししたのが2019年に石川健司社長が行った健康事業所宣言だった。

「社長は健康経営優良法人認定を目指す、とも宣言したのですが、申請の締切まであまり時間がなく、そもそも『どういうものか?』から調べるところから始めなければならなかったので大変でした」と尾藤さんは振り返るが、2020年には無事認定取得を果たし、その後2021年よりブライト500に3年連続して認定されている。

初のウォーキングラリーには全社員の半数以上が参加

また、ブライト500に連続して認定されるには毎年新しい取組を行うことが求められるため、次の新しい施策を考えるのも尾藤さんたちの役割である。

「2023年6月には新しい試みとしてスマートフォンを使った『ウォーキングラリー』を開催しました。これは会社が全社員に貸与しているスマートフォンにアプリを入れ、一日の歩数をカウントして月平均で誰が一番歩いたか?を競うものです。競争が目的ではなく、健康増進とコミュニケーションの促進が大きな狙いでした」と尾藤さん。社員の半数以上の77名が参加し、トップは一日平均1万5000歩だったという。全員ニックネームでの参加だったため誰が優勝者かわからず、社内で話題となりコミュニケーションの活性化にもつながった。

「健康セミナーの参加率がなかなか伸びないのが悩みでしたが、こういったゲーム感覚だと参加しやすいのだと実感し、社員からの評判もよいので今後も続けていこうと思っています」。いまでは野菜通信も社員の間で定着し、感想が返ってきたり、質問や「この野菜でスイーツを」とリクエストが届くようになったと尾藤さんは手応えを感じている。

その上で尾藤さんはキャンペーンやセミナー参加率の 向上だけではなく、「健康経営を行うことでお互いの健 康に関して話題が出て、社員間でお互いを気遣える職場 になることが重要 | だと考えている。

「業務内容以外の話題が出ることにも意味があると思います。優しい雰囲気で相手のことを思いやれるような朗らかな職場環境をつくりたいですね」と尾藤さん。会社全体の雰囲気がよい方向に流れていくような健康施策を打ち出していきたいと願っている。

社用車ではなく社用"自転車"で 社員の運動不足解消に一役

もう一つユニークな施策に「社用自転車」がある。

「私どもの業種はデスクワーク中心で残業が多く、しかも車通勤が多いのでどうしても運動不足になりがちなのが問題でした」と佐藤さん。

そこで2021年に会社が自転車を4台購入し、打ち合わせや銀行へ行くときなど近場への移動手段として活用を呼びかけた。当初はなかなか利用が伸びなかったというが、屋根付きの駐輪場も整備したところ車通勤だった社員が『夏場は気持ちがいいから』と自転車通勤に切り替えるなど、予想外の効果も生んでいる。

こうしていくつかの成果を重ねてきた一方、健康経営 は継続していくことが重要だと佐藤さんは感じている。

「同じ仕事量があったとして、それがより効率的にできれば時間外労働時間は減り生産性も上がります。しかし体調不良のまま出社してきて本来できる仕事の半分しか達成できなかったら会社としては困るわけです。そうした側面から言えば健康経営が今後ますます重要になってくるのは間違いありません。これからも粘り強く取組を続けて行きたいと思います」と佐藤さんは意気込みを語っている。

会社概要

北王コンサルタント株式会社

事業内容:土木、農業土木、上下水道、環境調査、地域計画 (許認可申請)、建築、測量調査、施工管理、三次元レーザー 計測、橋梁点検などの建設コンサルタント業

創 業:1967年

従 業 員:134名(2023年4月末現在)

所 在 地:北海道帯広市 会社URL:http://hokuo.co.jp/

2023.10 第 114 号 産業保健 21 23